



思いやりがLinkするところ

～温もりに満ちた学校へ～

校長室だより 6月号

2026. 6. 25

- <不撓不屈の芦中生>
- ・思いやりと温かな心
- ・言葉で伝え心で聴く
- ・自ら主体的に行動

うれしさも悔しさも 全てかけがえのない学び

陸上競技を皮切りに、先月から今月にかけて、各部の県体予選会が行われました。激励会でも話をしましたが、三年生にとっては「負ければ終わり」、まさに引退をかけた大一番の大会でした。すべての試合を



みることができずに残念でしたが、いくつかの会場で、チーム芦城の素晴らしい戦いぶりを見ることができ、心が熱くなりました。得点したプレーに喜び合う姿。うまくいかなかったプレーに声をかけ合う姿。仲間を鼓舞するために大きな声をかけ続ける姿。この大会のためにみなさんの努力してきた様子が目に見えるようでした。

試合は勝負です。勝負は文字通り勝ち負けがつきます。でも、単純に「勝てば良くて、負けたら悪い」というものではありません。大切なのは、この勝負から何を学んだかということです。この大会に自分が、自分たちが本気で取り組んだのならば、勝ちには勝ちなりの、負けには負けなりの理由が必ずあるはず。そこに目を向けることができれば、勝ちからはもちろん、負けただけからも大きな学びを得ることがで



きるものです。この大会をかけがえのない学びにするために、しっかりと振り返り、頑張った自分をほめてあげてくださいね。

思いやりの心が 行き交う時

大会が終わり、3年生には、県体に向けて頑張る人と、2年生に後を託し、新たな目標に向かう人がいます。2年生には、3年生から学べる時間が伸びた人と、先輩からバトンを受け継いだ人がいます。

1年生は、中学生としてのすごさと格好良さを肌で感じています。この



ように、いろいろな立場の人が混在するのが今の時期です。だからこそ、お互いの立場を理解し合えるみなさんであってほしいと思います。悔しさを飲み込んで、次へ向かう仲間を応援できる。仲間の悔しさを背負って仲間の分まで頑張れる。そういう温かな気持ちがあふれる学校になることを心から願っています。

とってもいい話

先日、学校に電話が。「買い物をして、大きな荷物を持って店を出たら、芦城中



学校の女子生徒が声をかけてくれて、荷物を持って運んでくれました。」という内容。行動できる素晴らしさ！